

4. 問題例

次の例題で実際の問題にチャレンジしてもらいましょう。 ※網掛け部分がトピックの箇所

次の文章を読んで、その大意を150字以内の日本語で述べなさい。

The relationship between teacher and student and that between slave owner and slave are both based on the superiority of the one over the other. The interests of teacher and pupil lie in the same direction. The teacher is satisfied if he succeeds in furthering the pupil; if he has failed to do so, the failure is his and the pupil's. The slave owner, on the other hand, wants to exploit the slave as much as possible; the more he gets out of him, the more he is satisfied.

At the same time, the slave seeks to defend as best he can his claims for a minimum of happiness. These interests are definitely antagonistic, as what is of advantage to the one is detrimental to the other. The superiority has a different function in both cases : in the first, it is the condition for the helping of the person subjected to the authority; in the second, it is the condition for his exploitation.

The dynamics of authority in these two types are different too : the more the student learns, the less wide is the gap between him and the teacher. He becomes more and more like the teacher himself. In other words, the authority relationship tends to dissolve itself. But when the superiority serves as a basis for exploitation, the distance becomes intensified through its long duration.

The psychological situation is different in each of these authority situations. In the first, elements of love, admiration, or gratitude are prevalent. The authority is at the same time an example with which one wants to identify one's self partially or totally. In the second situation, resentment or hostility will arise against the exploiter, subordination to whom is against one's own interests.

教師と生徒の
関係
奴隷主と奴隷
の関係
優越に基づく



両者の権威の
力関係

両者の権威の
心理状況

教師と生徒、奴隷主と奴隷の関係が、superiority と authority という観点においてどう違うかを述べた文章である。段落内の構成も以前に勉強した英語特有の論理「抽象→具体」に展開していることにも注目しましょう。キーセンテンスで筆者の言いたいことを主張して、その後でその説明をしているのですね。各段落の要点をまとめながら、次のような表の形が頭の中にまとめられれば、要約はそう難しくはないでしょう。



	superiority (優越)	authority (権威)
教師 VS 生徒	利害: 同じ方向 優越の機能: 支援	力関係: 接近 心理的關係: 敬愛・同化
奴隷主 VS 奴隷	利害: 逆方向 優越の機能: 搾取	力関係: 疎遠 心理的關係: 憎悪・反発

要確認



それではこの表を基にして、解答例を作ってみましょう。

【要約例】

教師の生徒への優越は利害が同じで生徒の進歩を支援する。一方、奴隷主と奴隷の利害は相反し、奴隷は最小限の幸福の防衛に努めるのに対し、奴隷主は最大限の搾取に努める。生徒は学ぶほど先生に接近し敬愛するので権威は消滅に向かうが、奴隷主の権威は搾取の機能を持つので、奴隷は憎悪の念を抱き両者の距離は隔たる。(148字)

【全訳】

教師と生徒との関係、および奴隷の主人と奴隷との関係は、どちらも前者の後者に対する優越を基にしている。教師と生徒の利害は同一方向にある。教師は生徒を進歩させることに成功すれば満足し、もしそれができなければ、失敗したのは教師でもあり、生徒でもある。これに対して奴隷の主人は奴隷からできるだけ多くを搾取したいと思い、奴隷から多く搾取すればするほど満足なのだ。

同時に、奴隷は最小限の幸福に対する自分の要求をできるだけ守ろうとする。前者にとって利益になることは後者にとっては不利益になるので、両者の利害ははっきりと対立している。両者の場合、優越は異なった機能を果たすのだ。すなわち、第一の場合には優越は権威に従わされている人を援助するための条件であり、第二の場合には彼らを搾取するための条件である。

これら二つの型における力関係もまた異なっていて、生徒が多く習得すればするほど、生徒と教師の間の隔たりは狭くなる。生徒はますます教師自身に似てくる。言い換えれば、権威関係は消滅する傾向にあるのだ。しかし権威が搾取の基盤となっている場合は、それが長く続く間に両者の隔たりは増す一方である。

これらの権威関係のそれぞれでは心理的状況も異なる。まず第一に、愛情、尊敬、感謝などの要素が支配的である。権威は同時に人が、部分的または全面的に自分自身をそれと同一にしたいと思う模範でもある。第二のに、搾取者に従うことは自分自身の利益に反するので、搾取者に対する憤懣や敵意が生じるのである。

●白紙答案は絶対に避ける

時間が足りなくて本文を最後まで読めなくても白紙で出してはならない。途中まで読んで「テーマや筆者の主張」らしきものが見つかったら、それだけでも答案に書く。部分点がもらえる可能性がある。